

# 「人生で一番可愛い日」

—初稿—

2025/12/19  
しののめ ののの

人物表

最上 ゆあ	（23）	心愛 （6） 心愛の母親	無職
-------	------	--------------------	----

1.

## 最上家のアパート・リビング（昼）

激しい雨音が、ボロアパートの一室に響いている。

カーテンが閉め切られた暗い室内。

最上心愛（6）の泣きじやくる声。

最上ゆあ（23）が喚きながら心愛を叩いている。

「こんなの要らねーんだよ。かわいこぶつてるつもりかよ」

「（めんなさい、ごめんなさい」

心愛の手には、オレンジのナガミヒナゲシ。

野花の毒素で、心愛の手が荒れている。

「それとも当てつけかよ。気持ちわりーんだよ」

泣きながら自身を庇う心愛の体には、痣や傷跡が複数ある。

「（つちはお前のせいで……お前さえいなければ」

「（めんなさい、ママ、ゆるして」

「ママもう生きてけない。お前のせいだ」「

「やだ、ママ、やだあ」

「やだじやねえよ。じゃあお前が死ねよ」

ゆあ、心愛の首を絞める。

心愛、苦しみつつ泣き続ける。

心愛  
「（めんなさい、ママ、（めんなさい……」

2.

## 最上家のアパート・寝室（夕）

雨は止んでいる。

心愛、ボロボロの薄い敷布団で縮こまるように眠っている。首元には絞められた跡。

カーテンの隙間から、夕日が差し込んでいる。

心愛、もぞもぞと起き出す。

3.

## 最上家のアパート・リビング（タ）

寝室から移動してきた心愛、リビングの扉を開ける。

心愛、凍りついたようにその場で立ちすくむ。

眼前に、首を吊ったゆあの足が揺れている。

薄いカーテン越しに差す夕日で、部屋がオレンジに染まつていく。

心愛、徐々に過呼吸になり、その場に崩れ落ちる。

#### 4. アパート・心愛のワールーム（朝）

暗闇の中、突然可愛らしい曲が爆音で流れる。

（「可愛くて」めん」のような痛可愛い系のJPOP）  
心愛（23）、はっと目を開けて飛び起きる。

白とピンクで統一された、お姫様系ロリータ趣味全開の部屋。

フリフリの遮光カーテンの隙間から日が差している。  
心愛、暫くぼんやりしている。

少しして、スマホから流れる曲を止める。

スマホを触る指には、ボロボロのネイル。

心愛、ベッド脇のミニテーブルに目をやる。

5月の卓上カレンダー。母の日の欄が囲われている。

心愛、それをじっと見つめる。

突然、苛ついた様子でカレンダーを掴み、投げる。

#### 5. アパート・心愛のワールーム（朝）

先ほどとは別の、似たような曲が爆音で流れている。

心愛、遮光カーテンを勢いよく開ける。

朝日が差し込んでくる。

心愛、わざとらしく笑顔を作る。

スタンド鏡の前へ座り、メイクを始める。

ロリータファッションに合うような、コテコテのドルメイク。慣れた手つきでどんどん進めていく。メイクを終えると、クローゼットを開ける。

中には、大量のロリータワンピース。

色々と引っ張りだしして、姿見の前で次々に試着する。準備を終えた心愛、曲が流れるスマホを鞄に入れ、ワイヤレスイヤホンをつける。

ふと、部屋の中心にあるテーブルを見つめる。様々な種類の錠剤が、大量に散らばっている。

心愛、死んだ目で雑にひと掴みし、少し見つめてから、ゴミ箱に捨てる。

錠剤を大方ゴミ箱に捨て、ワンルームを出る。

## 6. 街中（朝）

心愛、曲を聴きながら街中を歩いている。  
貼り付けたような笑顔。

## 7. ネイルサロン・外観（朝）

派手な外観のネイルサロン。

## 8. ネイルサロン・店内（朝）

心愛、イヤホンを片方だけ外しつつ、店内に入る。  
受付に女性スタッフが二人立っている。

心愛 「ここにちはあ」

スタッフ1 「心愛ちゃん。久しぶり。え、久しぶりだよね？」

心愛 「えっそうかもー。なんか病んでた」

心愛、へらへらと笑う。

スタッフ2 「え、わかるー。しゃーないよね」

スタッフ1 「でも今日めっちゃ気合い入つてない？」

スタッフ2 「思つた。超かわいい」

心愛 「やっぱ。今日ハイかも」

スタッフ1 「なんかあんの？」

心愛 「んー、そう。大事な日かもー」

スタッフ2 「いいねいいねー。じゃあアゲアゲな感じにしよー」

サロンスタッフ、手際よく施術の準備をする。

## 9. ネイルサロン・外（朝）

心愛、ネイルサロンから出てくる。

店員に手を振り、イヤホンをつけて歩き出す。

## 10. 花屋（昼）

心愛、花屋の店先へやつて来る。

イヤホンを片方外しつつ、店員へ話しかける。

11.

花屋（昼）

心愛、レジ前でイヤホンを耳に突っ込む。

オレンジの百合の花束を受け取り、店から出していく。

12.

街中（昼）

心愛、花束を手に歩いている。

どこか狂氣的な笑顔。

13.

墓地（昼）

人気のない墓地。

心愛、最上家と記された墓の前にやつてくる。

笑顔でゆっくり花束を掲げ、突然墓石に叩きつける。

心愛  
「死ね、死ねよ、てめえが死ね、クソが」

心愛、叫びながら墓を蹴り、暴れる。

心愛  
「なにが当たつけだよ。テメーが当たつけだろ。死ねよマジで、ゴミカス」

14.

街中（昼）

髪の乱れた心愛、死んだ目で街中を歩いている。

すれ違う人々が時折、それとなく心愛を避けたり、

盗み見たりしている。

15.

マンション群（昼）

心愛、ふらふらとマンション群の中に入っていく。

16.

マンション・外階段（夕）

マンションの屋上へ繋がる外階段。

心愛、ふらふらと上がっていく。

日が傾き始めている。

17.

マンション・屋上（夕）

階段から続く建付けの悪い扉。

ガン、ガンと内側から何度も蹴られた音がし、扉が開く。心愛が出てくる。

心愛、屋上の手すりまでやつて来て下を覗く。

中庭のようなエリアになつており、誰も居ない。

心愛、荷物をおろし、厚底のゴスロリブーツを脱ぐ。

爆音の流れるイヤホンを外し、バッグに仕舞う。

静けさが訪れる。

心愛、屋上の手すりを乗り越え、際に立つ。

手すりに向き直り、手すりを掴んだまま目を閉じる。

風の音だけが聞こえている。

心愛、清々しい表情で満足げに微笑む。

目を閉じたまま、ゆっくり手を離して背中から投身

しようとする。

ちょうどその時、遠くで少女の声が聞こえる。

少女の声 「ねえママ、これ」

心愛、ハツとして手すりを掴み直す。

下の様子を伺うと、中庭で幼い少女と母親が何か話

している。

二人、その場にしゃがみ込む。

### 18. マンション・中庭（夕）

しゃがんだ少女と母親、道端に咲いたオレンジのナガミヒナゲシを見ている。

母親 「可愛いねえ」

### 19. マンション・屋上（夕）

中庭の母娘を見下ろす心愛。

心愛からは、母娘の会話の内容や花までは認識できない。

母娘、一向にその場から離れる様子がない。

心愛、少し苛ついた表情。

### 20. (回想) 最上家のアパート・リビング（夕）

凍りついたようにその場で立ちすくむ、6歳の心愛。

オレンジ色の部屋で揺れている、ゆあの足。

呼吸がどんどん荒くなしていく心愛。

21. マンション・中庭（夕）

心愛、ふと冷めた表情になる。

能面のような顔で、手すりの内側に戻る。

ブーツを履き、荷物を持つ。

氣だるげにイヤホンを装着し、その場から去る。

22. マンション・中庭（夕）

しゃがみ込んでいた母娘、立ち上がる。

母親 「ねえ、夕日が綺麗だよ」

少女 「ほんとだ」

二人、空を仰ぎ、オレンジの夕焼けを見つめる。

視線の先にあるマンションの屋上には、誰も居ない。

おわり